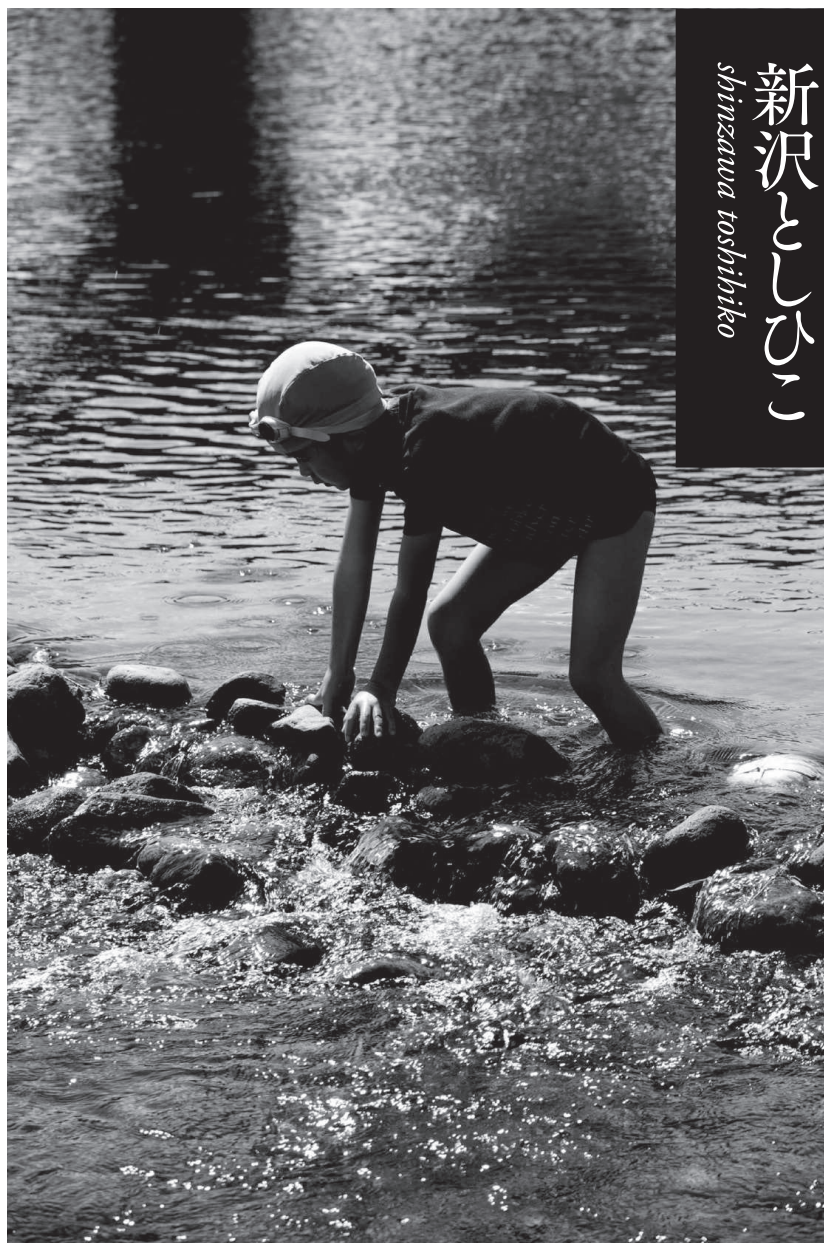


# こどもものうたを作る仕事

新沢としひこ

shinzawa toshihiko



ある年の夏、小学生たちと川に遊びに行ったことがある。僕は引率の大人の一人だった。川原に着くと、子どもたちはリュックを置いて、「かわだあー！」と叫びながら、バラバラと走り出して行った。その川は、昔から何度も来ているところで、見ていてあまり心配がなかったのだが、一人の少年がちょう

ど川にちょっと入ったところでコロコロと転がって、まったく歩けずにいた。Mくんという、その少年は最近引越してきた、この川に初めて来たのだった。彼は結局、バシヤンと川の中に尻もちをついて、「助けて〜」と声を上げた。僕は笑いながら「どうしたの？」と近づいていくと、

「こんなところ歩けない」と彼は言った。「だって、石がヌルヌルしちゃって、すぐくすべるんだよ」

「そうだね、それが川だからね。Mくん、川は初めて？」

「うん。ヌルヌルして気持ち悪い」

「そうか。嫌ならば、川に入らなくてもいいよ」

と言ったが、Mくんはしばらく、そのヌルヌルの川と格闘をしていた。他のみんなは普通に楽しそうに遊んでいるのに、どうして自分だけ？とプライドの高いMくんはかなりイライラしている。

その時、一緒に引率に来ていた大人たちは、彼のヨタヨタと川の中を歩く姿を興味深く眺めた。

「経験って大事だよ」

「初めての川はびっくりするかもね」

しかし、いつのまにかMくんはみんなと混ざって小さな魚を追いかけてたりして、楽しく遊んでいた。夕方になる頃には、すっかり川のとりこになったらしい。

「今日、一番楽しんだのはMくんかも」

「川を初体験したんだものね」

流れがあり、石でこぼこして、しかも苔などでぬるぬるしている川は、予想がつかないし、怪我の危険もある。草も生えている。虫もいる。魚もいる。鳥もいる。

例えばプールのほうが、安全で管理がしやすい。大人には便利。こどもにとっても快適だろう。けれども、川の、つまりは自然のおもしろさには、人工のプールは全然かなわない。

しかし、川は確かに危険だ。例えば裸足になって歩いたら、ガラスのかけら、釘、プラスチックの破片、などで怪我をすることもあつる。そもそも不安定な石だらけの足場で転びやすいし、石は硬くて、濡れた足はちよつと擦っただけでも傷になってしまふ。ビーチサンダルは脱げやすくて、転びやすいし、川の中で脱げると流されてしまうので、それも危険。こどもたちにはさまざま難関が待ち受ける。しかし、キラキラした水しぶき、ゆらゆらする水面、スイスイ手をくぐりぬける小さな魚たち、よくわからないけれども、何か不思議、何かがおもしろい。

言葉では説明しきれないような、多種多様な刺激が川遊びには満ちている。それが自然とふれあふことなのだと思う。

昨今、安全面の重視から、川で遊ぶことは禁止されることが多い。親からの苦情も怖い、なるべく怪我もさせたくないし、リスクを負いたくないから、引率の大人だって、ちよつと危険な自然には手を出したくない。そうしてこどもたちは自然から、遠ざかっていく。

整った環境で、小さな擦り傷も作ることもなく、安全に管理されながら、おだやかに遊ぶことが無難で最善とされる。

もちろん、こどもたちは、その中でも生き生きと遊ぶことができるだろう。しかし、何かもつたいないと、僕は思ってしまう。

言葉では説明できない自然からの贈り物を、受け取ることを忘れてしまっているような、そんな気になってしまふ。わかりやすい結果、数字や、形になった評価、みたいな、目に見えるものだけを信じるような傾向がないだろうか？

僕はこどもの歌の歌詞を書く仕事を長年している。それと同時に、「こどものうた研究所」というものを始めて、こどもの歌の歴史や変遷などを調べたりしている。その中で、気づいたことは、目に見えない何かに気づく力がだんだん弱くなっているのかもしれないということだ。

「ともだちはたいせつだ」

「きみのことがだいすきだ」

「希望や夢をいつももつことが大事だ」

「明日を信じよう」

などと、非常にわかりやすいメッセージをそのまま歌うような歌が現代では多く作られているように思う。

想像させたり、行間で物を語ることが、書き手も、聞き手も苦手になっているのかもしれない。

れない。

「川で遊ぶの楽しいな」

「みんなでなかよく川遊び」

みたいな結論だけの歌詞を書くのは簡単だけれども、同じメッセージを伝えるのでも、Mくんの体験のように、

「ヌルヌルして気持ちが悪い」

「すべってばかりでうまく立てなくて腹が立つ」

「みんなは普通に歩いている。どうしてだろう」

「僕もみんなと一緒に遊びたいな」  
を経ての、

「だんだんうまく歩けてきたぞ」

「ゆびのあいだを魚がすりぬけていく」

「バシャバシャはねあげると水しぶきがキラキラしてる」

「水をかけあつてともだちとゲラゲラ笑った」  
までの、心の経過、成長の軌跡、自然の素晴らしさとMくんが出会った喜び、をちゃんと伝えられたら、と思ったりする。

僕の仕事はそうやって、人間のこと、自然のこと、世界のことを、書いていく仕事なのか、と思うのである。

(しんざわ としひこ・シンガーソングライター、こどものうた研究所代表)

作詞代表作に、「世界中のこどもたちが」、「にじ」、「さよならばくとちのほいくえん」など